

数学補習プログラム（社会人院生向け）

トピック 13：逆行列

北村友宏*

2016年3月20日

1 逆行列（参考書上巻 pp.102-108, 137-142）

1.1 逆行列とは

- 正方行列 A において,

$$AA^{-1} = A^{-1}A = I$$

を満たす A^{-1} を A の逆行列という.

★ 逆行列を, 元の行列に右側から掛けても左側から掛けても単位行列になる.

★ e.g., $A_{n \times n} \mathbf{x}_{n \times 1} = \mathbf{d}_{n \times 1}$ を, $\mathbf{x}_{n \times 1} = \dots$ の形に書き換えたいときは,

$$\underbrace{A_{n \times n}^{-1} A_{n \times n}}_{=I_n} \mathbf{x}_{n \times 1} = A_{n \times n}^{-1} \mathbf{d}_{n \times 1} \iff \underbrace{I_n \mathbf{x}_{n \times 1}}_{=\mathbf{x}_{n \times 1}} = A_{n \times n}^{-1} \mathbf{d}_{n \times 1} \iff \mathbf{x}_{n \times 1} = A_{n \times n}^{-1} \mathbf{d}_{n \times 1}$$

のように, 両辺に左側から A^{-1} を掛ける.

- 正方行列であっても, その逆行列は必ずしも存在するとは限らない (詳細は後述).
- 逆行列をもつ正方行列を非特異行列という.
- 逆行列をもたない正方行列を特異行列という.
- 正方行列 A と B が非特異であれば, 以下の法則が成立する.

$$(A^{-1})^{-1} = A \quad (\text{逆行列の逆行列は元の行列}),$$

$$(AB)^{-1} = B^{-1}A^{-1} \quad (\text{積の逆行列は各行列の逆行列を, 順序を逆にして掛けたもの}),$$

$$(A')^{-1} = (A^{-1})' \quad (\text{転置の逆行列は逆行列の転置}).$$

.....
例題 1.1.1 D を k 行 r 列の行列, S を r 行 r 列の正方行列とする. また, S は非特異であるとする. このとき, $DS^{-1}SS^{-1}D' = DS^{-1}D'$ を証明しなさい.

解法

- 証明問題なので, 証明の始まりと終わりを明記する.

* Email: kitamu.tom@gmail.com URL: <http://tomkitamura.html.xdomain.jp>

- 行列の積の計算では結合法則が使えるので、証明すべき式の左辺の $S^{-1}S$ の部分をまず計算する。具体的には、逆行列の定義 ($AA^{-1} = A^{-1}A = I$ を満たす A^{-1}) を適用する。 S が A に相当。
- すると単位行列が出てきて DI_r という部分が現れるので、結合法則によりその部分を計算する。具体的には、単位行列の性質 ($IA = AI = A$) を適用する。 D が A に相当。

$$\text{(証明)} \quad D \underbrace{S^{-1}S}_{=I_r} S^{-1}D' = \underbrace{DI_r}_{=D} S^{-1}D' = DS^{-1}D'. \quad \text{(証明終)}$$

1.2 逆行列の計算

- $n \times n$ 正方行列 A の逆行列 A^{-1} は、

$$A^{-1} = \frac{1}{|A|} \text{adj } A = \frac{1}{|A|} \underbrace{\begin{bmatrix} A_{11} & A_{21} & \cdots & A_{n1} \\ A_{12} & A_{22} & \cdots & A_{n2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{1n} & A_{2n} & \cdots & A_{nn} \end{bmatrix}}_{=\text{adj } A}$$

のように計算する。

★ $\text{adj } A$ は余因子行列 (adjoint matrix)。

★ 余因子行列の要素の配列に注意！

$\text{adj } A$ の第 1 行 2 列目には、 A の第 2 行 1 列目の余因子 A_{21} が、 $\text{adj } A$ の第 1 行 3 列目には、 A の第 3 行 1 列目の余因子 A_{31} が、 \cdots 入っている。

$\text{adj } A$ の第 2 行 1 列目には、 A の第 1 行 2 列目の余因子 A_{12} が、 $\text{adj } A$ の第 3 行 1 列目には、 A の第 1 行 3 列目の余因子 A_{13} が、 \cdots 入っている。

- A^{-1} は $|A| \neq 0$ のときのみ計算できる。

$\Rightarrow A$ の逆行列は、 A の行列式が 0 でないときのみ存在し、 A の行列式が 0 のときには存在しない。

例題 1.2.1

$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 1 & -2 & 5 \\ 2 & 3 & 3 \end{bmatrix}$ の逆行列を求めなさい。

解法

- まず、 A の各要素の余因子を求める。

\mathbf{A} の各要素の余因子は、以下の通りである。

$$A_{11} = (-1)^{1+1} \begin{vmatrix} -2 & 5 \\ 3 & 3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} -2 & 5 \\ 3 & 3 \end{vmatrix} = -2 \cdot 3 - 3 \cdot 5 = -6 - 15 = -21,$$

$$A_{12} = (-1)^{1+2} \begin{vmatrix} 1 & 5 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 1 & 5 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = -(1 \cdot 3 - 2 \cdot 5) = -(3 - 10) = 7,$$

$$A_{13} = (-1)^{1+3} \begin{vmatrix} 1 & -2 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & -2 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = 1 \cdot 3 - 2 \cdot (-2) = 3 + 4 = 7,$$

$$A_{21} = (-1)^{2+1} \begin{vmatrix} 2 & -1 \\ 3 & 3 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 2 & -1 \\ 3 & 3 \end{vmatrix} = -[2 \cdot 3 - 3 \cdot (-1)] = -(6 + 3) = -9,$$

$$A_{22} = (-1)^{2+2} \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = 1 \cdot 3 - 2 \cdot (-1) = 3 + 2 = 5,$$

$$A_{23} = (-1)^{2+3} \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 3 \end{vmatrix} = -(1 \cdot 3 - 2 \cdot 2) = -(3 - 4) = 1,$$

$$A_{31} = (-1)^{3+1} \begin{vmatrix} 2 & -1 \\ -2 & 5 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 2 & -1 \\ -2 & 5 \end{vmatrix} = 2 \cdot 5 - (-2) \cdot (-1) = 10 - 2 = 8,$$

$$A_{32} = (-1)^{3+2} \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 5 \end{vmatrix} = - \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 5 \end{vmatrix} = -[1 \cdot 5 - 1 \cdot (-1)] = -(5 + 1) = -6,$$

$$A_{33} = (-1)^{3+3} \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 1 & -2 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 1 & -2 \end{vmatrix} = 1 \cdot (-2) - 1 \cdot 2 = -2 - 2 = -4$$

である。

● 次に、 \mathbf{A} の行列式を求める。

★ 既に \mathbf{A} の各要素の余因子を求めているので、ラプラス展開をするとよい（どの行・列に沿って展開してもよい）。

★ ここでは第 1 列に沿ったラプラス展開を説明する。

よって、 \mathbf{A} の行列式は、

$$|\mathbf{A}| = 1 \cdot A_{11} + 1 \cdot A_{21} + 2 \cdot A_{31} = 1 \cdot (-21) + 1 \cdot (-9) + 2 \cdot 8 = -21 - 9 + 16 = -14.$$

● 最後に、逆行列の計算方法に従い、 \mathbf{A} の逆行列を求める。

したがって、

$$\begin{aligned} \mathbf{A}^{-1} &= \frac{1}{|\mathbf{A}|} \begin{bmatrix} A_{11} & A_{21} & A_{31} \\ A_{12} & A_{22} & A_{32} \\ A_{13} & A_{23} & A_{33} \end{bmatrix} \\ &= \frac{1}{-14} \begin{bmatrix} -21 & -9 & 8 \\ 7 & 5 & -6 \\ 7 & 1 & -4 \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} -\frac{1}{14} \cdot (-21) & -\frac{1}{14} \cdot (-9) & -\frac{1}{14} \cdot 8 \\ -\frac{1}{14} \cdot 7 & -\frac{1}{14} \cdot 5 & -\frac{1}{14} \cdot (-6) \\ -\frac{1}{14} \cdot 7 & -\frac{1}{14} \cdot 1 & -\frac{1}{14} \cdot (-4) \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 3/2 & 9/14 & -4/7 \\ -1/2 & -5/14 & 3/7 \\ -1/2 & -1/14 & 2/7 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

である。

.....